

4月29日のみどりの集いは、天候にも恵まれ、たくさんの来園者で賑わいました。ありがとうございました。現在、山を見渡すとシイノキの黄色い花序や新芽がよく目立ち、園内ではヒトツバタゴやホオノキが見ごろを迎えています。また、例年より1週間早く開花したハンカチノキは現在、総苞片が落ちていますが、もう少し楽しめます。

## ★ 開花情報

### ヒトツバタゴ（一葉たご）モクセイ科ヒトツバタゴ属（写真1左）

「ナンジャモンジャ」の名前で呼ばれることも多いヒトツバタゴは、自生地が木曾川流域と対馬に限られるため、他地域では分からない木という意味で、ナンジャモンジャと呼ばれています。雌雄異株の落葉高木で、5月上旬、新枝の先に円錐花序を伸ばし、花卉の細かい白花をたくさん咲かせます。葉は単葉で全縁ですが、幼木には細かい鋸歯がある葉が多いです。名前にある「タゴ」はトネリコ類の別名で、ヒトツバタゴの名は単葉のトネリコという意味です。今日の雨で落花が進んでいますので、お早めに。

場所：多目的広場

### タニウツギ（谷空木）スイカズラ科タニウツギ属（写真1右）

日本固有種で、北海道西部から本州の主に日本海側の日当たりの良い山野に自生します。樹高5m程になる落葉小高木で、公園や庭にも植えられます。タニウツギ属の葉や花は良く似ており、ヤブウツギの花冠は桃色で有毛、またハコネウツギは、最初白色で次第に赤色に変化し、筒部分は上半部が急に太くなります。この2種に対してタニウツギの花冠は、無毛か少し毛があり、蕾の時期から桃色を帯び、外面のほうが内面より色が濃く、花筒は上部に向かって次第に太くなります。

場所：ツバキ園前

### オオデマリ（大手毬）スイカズラ科（APG:レンプクソウ科）ガマズミ属（写真2左）

ケナシヤブデマリに由来する品種と考えられ、花が全て装飾花になるため、テマリバナとも呼ばれます。咲き始めは緑色で後に純白色になります。また、名前の似たコデマリ（写真2右）はバラ科の落葉低木で、現在見本園で満開になっています。

場所：しゃくなげロード入口（オオデマリ）

### タラヨウ（多羅葉）モチノキ科モチノキ属（写真3左）

暖地の渓谷などに自生する常緑高木で、長さ 20cm 程の大きな葉を持ちます。葉裏を傷つけると茶色に変色するため、文字が書けます。この性質を、古来インドや中国で経文を書くのに用いられたタラジュ（多羅樹）になぞらえてタラヨウと名付けられました。また、はがき（葉書）の語源の木で、ハガキノキとも呼ばれ、郵便局にも植栽されています。葉の裏に切手を貼り、住所氏名を記してポストに投函すれば、郵便はがきとして宛先へ届きます。写真は雄花です。こちらも雨で落花が進んでいます。

場所：第3駐車場入り口横

### ギンリョウソウ（銀竜草）イチャクソウ科（APG: ツツジ科）ギンリョウソウ属（写真3右）

山林内のやや湿った落ち葉の上に生え、栄養分はすべて菌根菌（キノコ）を介して得ています。光合成を行わず葉緑体を持たないため、地上部は全体が透明感のある白色を帯び、鱗片状の葉は互生します。また根は褐色で、地中で塊になっています。花は5月初め頃、茎の先から抱葉に包まれた花を下向きにつけます。ギンリョウソウの名は、植物体全体の姿を銀色の竜に例えて名付けられました。

場所：レストハウス裏

### ★園内開花状況まとめ

咲き始め	ハクウンボク、ヒメヤマツツジ、ヤマボウシ（総苞片開き始め）、コガクウツギ、ギンリョウソウ、コウホネ、ツクバネ、エニシダ 他
見頃	ヒトツバタゴ（写真1左）、タニウツギ（写真1右）、オオデマリ（写真2左）、コデマリ（写真2右）、タラヨウ（写真3左）、カマツカ、ジャケツイバラ、トチノキ、キリ、カシワ、アキグミ、ギンリョウソウ（写真3右）、チェリーセージ、マツバウンラン他



写真1左 ヒトツバタゴ（多目的広場） H28.5.9



写真1右 タニウツギ（ツバキ園トイレ前） H28.5.9



写真2左 オオテマリ (しゃくなげロード入口) H28.5.9



写真2右 コテマリ (見本園) H28.5.9



写真3左 タヨウ (第3駐車場横園路沿い) H28.5.8



写真3右 ギンリョウソウ (レストハウス裏) H28.5.9